

新ひだか町 パブリックコメント

町民の皆さまに頂戴したご意見の概要を記載させて頂きます。詳細内容につきましては、「役場窓口」「町立病院」「町ホームページ」にてご確認ください。

1. 町立病院へのご意見・ご要望

- 町立病院のコロナ対策とその取組みがどうなっているのか分からない
病院の取組として発熱外来を実施しており、静内病院ではコロナ病床を10床設置し、陽性者の受け入れを実施しています。また、静内病院、三石国保病院も個別のワチン接種も実施しており、静内病院では外来患者への点滴治療も行っています。住民への周知も強化しながら、必要な医療を提供していきます。
- 静内病院における救急患者の受入体制を見直すべきではないか。救急の受入れをしてはくれなかったことがあった
静内病院は24時間365日受け入れを行う救急告示病院となっております。最善の受診をしていただくため、かかりつけの病院等を考慮させていただいたことがありますが、町民の皆さまの声につきましては真摯に受け止め、スタッフへ指導等を徹底し、今後救急告示病院としての役割をしっかりと果たしてまいります。

2. 施策全般に係るご意見・ご要望

- 三石の病床を無くすことで、町民の平等性を確保できなくなってしまう
新ひだか町の住民であれば居住地に関わらず、平等な医療を受ける権利があると認識しております。そのため、三石地区の住民の皆さまが静内地区で医療を受けることはもちろん可能となっております。新ひだか町として、将来に渡り継続して必要な医療を提供するためには、「人材確保」「財政的負担の観点から、根本的な改革が必要と考えており、そのために医療資源を多く必要とする急性期医療機能の集約化を図ります。現在、三石国保病院におきましては、急性期医療の提供をすることが人的・ハード的な部分から困難な状況であります。今後は、「静内」「三石」地域で分けるのではなく、「新ひだか町」全体で様々な医療資源を考えなければ、継続した運営はできない時代に入っております。
- 三石から静内に行くための交通機関が充実していない。三石の住民が安心した医療を受けられなくなるのではない
入院病床を集約した場合には、入院に際しましては物理的に移動時間がかかってしまいますが、入院時の「三石国保病院」から「静内病院」間の移送や現状の「医療バス」「コミュニティバス」や現在町で検討している公共交通網の構築と併せて検討していきたいと考えております。多くの患者様が受診している外来機能は、三石地区で堅持する計画となっており、外来受診が困難となった場合は、在宅診療の選択もしていただくことができる計画となっております。
- 医師等の確保の取り組みが不足しているのではない
医師は、全国的に不足しており、現在も様々な手を尽し医師確保の取り組みを行っていますが、応募がない状況であり、引き続き取り組みを強化していきます。また、今後は医療ニーズを踏まえ、両病院間で柔軟な人材の融通なども行っていく必要があります。

3. 病院財政に係るご意見・ご要望

- 町立病院の赤字要因は何か
赤字の要因としては、他の民間病院で実施していない不採算診療料についても、公的病院の役割として診療を担う必要があること、職員の年齢構成が高く民間病院と比べ人件費が高い傾向が見られ、収入に対し人件費の割合が高いことが要因となっています。また、昨今の新興感染症における減収も要因の一つとなっています。
- プランを実行することで赤字は解消するの
今回お示ししていますプランの実行により、人員体制の見直しや効率的な運営を行うことで、現在約7億円ある医療収支の不足から約3億円程度縮減する計画としています。町としては、この計画の方向性の如何によらず、現状においても一体運営等の取り組み等により両病院の収支改善を進めてまいります。
- 新たな施設を新築する財源はどこから
町がご提案している内容を進める場合、建物だけを考えても早くても4年後になると見込まれます。今回のご提案は、現状より少ない人員で外来を堅持し、今の赤字を約半分程度減らすことが可能である試算となっております。建物を新築する際には、今までの病院の規模を縮小することで補助金や起債による財源を確保し実施する予定です。

4. 三石病院の無床化に係るご意見・ご要望

- 三石国保病院の病床を残すべきではないか
三石国保病院に病床を残す検討も致しましたが、三石国保病院を有床診療所とした場合、看護師等の配置基準から現行と同等の人員が必要となります。無床化（在宅医療）に転換することで、入院病床を残すよりも少ない人員数で運営が可能であり、収益が改善します。機能重複を避け病床を集約し、外来医療機能を堅持しながら、更に在宅医療をご提供できる体制の構築を進めていきたいと考えています。
- 病床は静内病院を無床として三石国保病院を有床とするべきではないか
町内民間医療機関の意見交換では、静内病院の担う二次医療圏（日高医療圏）の循環器科にかかる患者の受入は、二次医療圏において必要な医療機能であること意見を頂いております。また、静内病院は、救急告示病院であるため、二次医療圏における救急医療体制の要となっております。更に、静内病院は後方支援病院として、地域包括ケア病床を確保していかなければならないため、既存病床を活用し静内病院に病床への集約したいと考えています。
今回の計画では、三石地区での病院機能を維持・継続するために施設の転移を想定しています。コスト面からも新たに新築する施設と設備は、病床を有する大きなものではなく、施設規模を縮小した機能的な施設にする必要があります。

5. 在宅医療・救急診療に係るご意見・ご要望

- 在宅医療の整備は必要なのか。在宅医療の提供は入院機能より人員が必要となるのではない
地域の足が無くならない通院が困難になってしまった地域住民の皆さまに、医師や看護師等が自宅にお伺いするサービスを選択できるように準備を整えてまいります。今後の更なる高齢化を見据え、新ひだか町全体として整備が必要な医療サービスであります。三石国保病院と外来在宅医療の機能に切り替えることで、現在の職員数でも十分に運用することが可能となります。それにより、三石地区における医療機能を保持することが可能となります。
- 重症患者の救急受入は今後どのようなようになるのか
現在、肺炎や心筋梗塞等の重症疾患は、三石国保病院にはおらず、町立静内病院や「苫小牧市」「札幌市」の病院に搬送しており、軽症の一次救急のみ三石国保病院で受け入れる体制を保持しておりますが、近年は、新興感染症の影響により、受入が困難となっております。病床を静内病院に集約し、今後、一次救急の受入は、救急告示病院である「静内病院」「浦河日赤病院」「日高徳洲会病院」が対応をいたします。

6. 改革プラン推進のご意見

- 三石病院は無床の新しい建物にして若い世代も受診しやすい病院にしてほしい
町としては、三石国保病院の無床化についてご提案しておりますが、三石地区から医療機関を無くすることは、全く考えておらず、従来の外来機能に併せて新たに「在宅診療」「ニーズを踏まえた専門外来の新設」「老朽化した建物の新築」を提案しております。また専門外来の新設においては、若い世代の受診動向なども含め検討していきたいと考えており、高齢者の方はもちろん若い世代の方のニーズも踏まえ、町民の皆さまが必要な医療を地域で受けることが出来る診療体制を目指します。
- 病院を2つ残すなら機能重複を整理し効率的運営を行うべき
新ひだか町新公立病院改革プラン（案）では、静内病院及び三石国保病院2つの公立病院において地域住民に対し持続的に医療を提供するために、経営面を含めて運営体制や今後の在り方について、さらなる根本的な改善、改革が必要不可欠から、様々な面から総合的に検討してプランを策定しております。今後につきましても、2つの町立病院を効率的に機能分担し、町民の皆さまが安心安全に必要な地域医療を受けることが出来るように努めて参ります。

町民の皆々に見え、新ひだか町新公立病院改革プラン（案）の概要を改めてお示しします。

■ 静内病院は、地域の医療機関と連携しつつ、救急指定病院として、一次救急に加え、二次医療圏内における二次救急の役割を担っております。地域包括ケアシステムの中では、日常医療を担うかかりつけ医としての機能とともに、町内の医療機関で受診できない診療科を補完する役割を担っています。また、回復期や在宅医療のニーズが高まっており、急性期後及び在宅療養の後方支援の機能を強化していきます。

(1) 役割・機能の最適化と連携の強化

■ 静内病院は、急性期機能を堅持し、循環器科等の急性期治療及び二次救急医療へ対応していきます。新型コロナウイルス感染症への対応では、陽性患者の受入れ可能な陰圧病棟を10床設けています。令和2年度に静内病院の一般病棟内に地域包括ケア病棟を新設しました。急性期後の医療と在宅復帰並びに在宅での生活を支える機能を強化していきます。

■令和2年度より三石国保病院の一般病床20床を休床しております。三石国保病院の療養病床を静内病院に集約し、無床の在宅支援診療所として新築し、外来医療機能及び在宅医療機能へ転換します。

■医師及び看護師、薬剤師等の医療従事者の確保に向けた、勤務環境及び住環境の改善に加え、医師紹介事業者の活用、北海道看護協会による応援Nurse等の活用による取組みを進めています。今後もこれらの取組みに加え、北海道三医大の医局や地域・地域の基幹病院、関係機関への働きかけとともに、地域の魅力の広報活動を通じて多様な採用方法を検討していきます。

■ 地方公営企業法の一部適用での経営を継続し、地域医療を確実に確保するなかで、健全経営を目指すこととします。

■ 静内病院は、公立病院として、新しい町内及び日高圏域における新型コロナウイルス感染症に対応するため、令和3年10月に併設していた旧介護老人保健施設を活用し、既存病床と完全分離したコロナ専門病床を10床整備しています。平時には一般病床としての利用も進め、機動的な活用を図っていきます。

■感染拡大時を想定して、職員研修、コロナ重症化防止薬及び感染防具の備蓄、院内感染の防止対策、町立2病院での捕完体制強化を図っています。

■ 長期的な視点をもって、病院施設や設備の長寿命化や更新などを計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、投資と財源の均衡を図っていきます。三石国保病院は建設後45年以上が経過しており、病院から無床の在宅診療所として新設建替を行います。今後、移転場所や診療体制の検討などを進め、建設費用に加えて維持管理費の抑制も踏まえて、整備費の抑制に取り組みます。

■ 医療提供体制を確保し、良質な医療を継続的に提供していくために、経営指標に係る数値目標及び収支計画を設定いたします。今回、プランの技術的な改革をご提案していますが、その方向性の如何によらず、両病院の一体的な運営を進め効率化等を行い赤字の縮減を行います。また、収支計画については、診療報酬の改正等の経営環境の変化により影響を受け、プラン策定後においても状況変化を踏まえ必要を見直しを行います。

